

「聖書を読んでみないか」

藤田 正明

「藤田君、聖書を読んでみないか」「時間、時間だよ。時間を大切にしようじゃないか」

私と故大平総理とのお付き合いは、かれこれ四半紀に及ぶものでした。その間、数多くのことをお教えいただき、またその言動に深い感銘を受けたことも一再ではありません。

私が国会議員となつたのは昭和四十年ですから、その前の約十年間は、一民間人として大平さんとご交際を願つたものです。実は私の父が、広島県の出身ということもあつて故池田総理と昵懇の間柄で、一月あるいは二月に一回くらい東京で暮を打っていました。そういう時、私は父の力パン持ちで、いつも傍で観戦をしておりますが、そこへ何回か大平代議士がこられて、池田総理といろいろ密談をされていたことを覚えています。昭和三十一年に私が国会議員に出ようと決意した時にも、もちろん池田総理には半年くらい前に相談をしたわけですが、その後はすべて大平さんと相談させていただいて、広島県から参議院議員になつたような次第です。

いわゆる「三木おろし」といわれたことがありました。そしてその後、大平さんが総理になられるのか、それとも福田さんが先になられるのか、そういう争いがあつた時点があります。その最中、私は、大平さんを囲んで三、四人で食事をしながら、ある意見を申し上げたことがあります。具体的な内容については差し控えさせていただきますますが、私としては、でき得る限りの情報を集め、そして真直ぐに進言申し上げたつもりです。その時に大平さんは、「藤田君、君は悪いことを考えるなあ。そこまで考えては、キミ、おかしいよ」そして唐突に、「時

に藤田君、聖書を読んでみないか」。

戦術と戦略の相違としては理解できたものの、一言のもとにはなつつけられてしまった私は、素っ気なく、「私は安芸門徒ですから聖書は読みませんよ」。

すると大平さんは、「いや、聖書は、キミ、あれは面白い小説だと思って読めばいいんだよ。読むたびにあの解釈は新しく出てくるんだ。何ならボクの聖書をやるが」。

私は、大平さんが敬虔なクリスチャンであり、宗教に造詣が深いことは知っていましたが、聖書を読めといわれたのは、まさに頂門の一針でした。その時にも感じたのですが、大平という人は、激しい権力闘争の世界にありながらも、常に神と対峙して自分の行動を厳しく見つめていた人だと思えます。

これもまた、やはり政界の騒動の最中に私に何度もいわれた言葉で、強く印象に残っているものですが、「時間、時間だよ。時間を、キミ、大切にしようじゃないか。時間というものは誤解も解いてくれるし、また感情の対立もほぐしてくれるものだよ。時間というものを活用しようじゃないか」。私は時間というものの大切さ、政治の世界のいろんなやりとりにおける時間の活用の仕方、そういったものを学ぶことができたと感じております。

このように、大平さんに教えていただいたことは数限りなくありますが、大平さんの、宗教を持ち、そして哲学を持った政治家として立たれていた姿は、実に巨大なものであったと思えます。残念ながら国内では、全く不運、不遇な総理、総裁としての政治生活でしたが、国際的には、大平総理の偉大さは充分に認められていたと思います。今後十年経ち二十年経った時、大平さんの言動が非常に味わいのある、意味の深いものであったことを国民すべてが認めるであろうと私は信じております。

(参議院議員・元総理府総務長官)